令和５年１月１０日（火）　全体集会　あいさつ

明けましておめでとうございます。新年を迎え、皆さんも何か目標を立てたと思います。そこで、その目標に向かっていく心構えの１つになればと思い、ある言葉を紹介します。

もともとは千利休の教えとされていますが、「守・破・離」という言葉です。茶道や能・歌舞伎、剣道・弓道などの芸能や武道における道を進んでいく、極めていくプロセスを表す言葉としてよく使われています。

「守」とは、「最初は先人の教えを徹底的に吸収し、それを守るところから始まる」という意味です。つまり、ものごとの基礎・基本は偉大な方々が説かれる決められた型や教えを守って、それを繰り返して、土台を固めることです。

つづいて「破」とは、基礎・基本が無意識に出来るほどに習得できたら、「守」の教えを守りながら、自分なりの工夫を入れる。つまり、発展した段階に入ったことを意味します。

そして「離」とは、最終的にはオリジナルの自分なりのスタイルを確立して、個性を発揮する段階になったことを意味します。一見それは、先人の「型(教え)」から離れているように見えても、実は根っこの基本は「守」っている。この一連の流れをまとめて「守・破・離」と呼びます。

高志中学校の皆さんは、「守・破・離」のどの段階に当たるのでしょうか。

中高一貫の６年間、特に中学校段階は、やはり「守」だと考えます。偉大な多くの先人や指導者、先輩の方々の教えを聞き、それを繰り返して吸収・習得する時期です。

そして、この「守」の考え方は、学習、スポーツや習い事だけに通じるだけでなく、嘘はつかない、約束は守る、こうあるべきもの、してはいけないことなど、道徳や社会的ルールにも広がり、人間としての土台にも当てはまります。

そして、徐々に自分のオリジナルを入れたくなるのは、18 歳成人ではありませんがこの時期頃かと考えています。当然ですが、１回で「破」の段階に到達するはずがありません。何度も何度も、壁にぶつかるはずです。その時は、また基本である「守」に戻ればいいのです。

つまり、「守・破・離」のプロセスは一直線の右肩上がりではなく、それぞれを行き来して上昇していくスパイラル状のものです。そして、そのプロセスを何度も経ていることこそが本物なのです。

これから、皆さんは自分の夢であれ、何事にも進めていく上で、いくつもの「壁」にぶつかると思いますが、それは当たり前のことなのです。そのたびに「守・破・離」を繰り返すことを思い出して、回り道や失敗なども夢に繋がる道だと信じてください。

新しい年を迎え、卯年に飛躍できる１年を願っています。